

私の山歩きのスタイル

監事 渡辺清風

時間が出来ると山歩きに行きたくなり、計画を立てる、一番楽しい時間である。最初に考えるのは「できるだけ楽しよう」ということ



だ。山のガイドブックは身の回りに沢山ある。次に人に殆ど逢わないルートを探す。行くときは一人で行くため事前に山道情報を調べる。今の時期は山の天候が変わりやすいためエスケープルートも調べます。ここまでが事前の計画である。携帯品のチェックも大事である。

初秋の山歩きは前日まで行くかどうかぐずぐずするのが通例である。いつも考え込むのは寒暖の差が激しくてウェアリングをどうするかということだ。さらに出発時刻も決めかねる。迷った挙句に始発の時刻とするがさて起きれるだろうか……

結局のところ朝起きた時点で決める。行く場所は関東一円の低山だ、早朝の電車は皆が通勤する方向と逆方向のため、空いているのでぐっすり眠って起きたところが目的地である。秋の山は気を付けないと落ち葉が重なりあっているためややもすると滑って転んでしまう、若い時には問題は無かったが年寄りになると思わぬ転倒事故になる。年寄りの骨折は長くなる。四季の花木を愛でるにはゆったりとした時間と気持ちが必要である。山は静かで風の音と時折知らない野鳥の声が聞こえる。最近の低山では熊の出現が身近に発生するためラジオをつけて用心をする、イノシシや小さな鳥の遭遇は珍しくない。最近の低山は山道が荒れて尾根道はか細く、左右は急峻な勾配である。何度か滑り落ちた事もある。特に雪の降った後は、踏み抜いてヒヤッとしてそろそろとストックに頼りながら這い上がる事もある。原因のひとつは山の中で駆け抜けるトレラン走者やクロスバイクを持ち込んで走る人たちが少なからずいる事ではないかと思う。それ以上に戦車のごとく地響きを立てて2

～30人の「おばさん軍団」に出会う事もある。その時、私は路肩に小さくなり、おしゃべりをしながら通過する現代のアマゾネスをやり過ごす。さらにトレランが行われる時期には木につけたピンクリボンが多くなり方向を見失う事もある。それでも山歩きは楽しく苦しいもので終わった後の疲労感が心地よい。

2018年度活動報告

資源活用型下水道システムに関する研究集会報告

資源活用型下水道システム部会長 清水 洽

11月27日(火) 13:30より「下水処理場の地域バイオマスステーション化の現状と今後の展開」をテーマに82名の聴衆を集めて研究集会を開催した。会場は渋谷区の健保プラザで、ほぼ満員状態でした。

講演はNPOの昆理事を司会に、佐藤和明理事長から「資源活用型下水道システム部会」の紹介から始まった。引き続き基調講演として長岡技術科学大学 姫野修司准教授から「地域バイオ



マスステーションとしての下水道の役割」をテーマに国土交通省の地域バイオマスステーション(B-DASHプロジェクト)の取り組みと、現在進行中の長岡市生ごみバイオガス発電センターの分別ごみのバイオガス化技術や、河川・道路・公園等で発生する刈草からのエネルギー回収、さらに新潟市中部下水

処理場での可燃ごみと下水汚泥の混合消化の実証実験等の報告があった。

続いて地域バイオマスステーション化事業実施例紹介として、埼玉県下水道局下水汚泥事業課石川淳主査より「埼玉県



流域下水道を核とした下水汚泥の共同処理化について」をテーマに埼玉県流域下水道の紹介と、平成 30 年度に制定した下水道局の営業戦略と広域化・共同化の取り組み、市町・組合との下水汚泥の共同処理の取組、等の話があった。

また豊橋市上下水道局下水道施設課 七原秀典課長から「～新たなエネルギーの創出～下水処理場における地域バイオマスの利活用」をテーマに日本で 3 番目に供用を開始した豊橋市の下水処理場の紹介と下水汚泥、し尿・浄化槽汚泥と生ごみを取り込んだバイオマス利活用センターの処理フローと補助事業の経緯やバイオマス利活用の効果と稼働状況、等の報告があった。

最後に月島機械下部水環境事業本部ソリューション技術部新事業グループサブリーダー 青柳健一氏から「官民連携による消化ガス発電事業」をテーマに鹿沼市黒川終末処理場で発生する消化ガス施設を利用した、消化ガス発電事業（電力会社に売電）と事業実施後、鹿沼市内の他のバイオマス（食品系）を下水処理場に受け入れ、下水汚泥と混合消化することによって、消化ガス発生量を増量し事業採算性向上を目的とする提案型事業の取り組みの報告があった。

また総合討論では各バイオマステーションの採算性やコスト評価、維持管理の状態に関して質問が集中し、視聴者の関心の高さが判った。

会員だより

酔童感話 第 3 4 話 会員皆様のご活躍を祈念して

「副：悲惨な現状」

伊達萩丸

11 月はじめに、国会で平成 30 年度補正予算が発表された。今年度の災害復旧の為、総額約 9,800 億円との事。壊れたインフラを一刻も早く復旧させる事は、非常に優先順位の高い命題と誰もが感じる。ところで、9,800 億円というお金、どこから捻出するの？ その上補正予算だから、基本的に平成 31 年 3 月末までに使い切らなければならない。建設公債と余剰金で支払うという事だが、後でツケが出てきそう。労働人口 6,700 万人当たりで換算すると、一人当たり約 1.5 万円になるらしい。勤労者は、さらに 1.5 万円の税金を支払うという事。厳しいね。

つまり、就職して結婚し子育てをしながら、さらにその間、現在の税金を支払い続けた上で、退職時に補正予算分の貯金「就労期間を 43 年とすると、1.5 万円×43 年間＝64.5 万円」＋老後の生活費「1 億円は必要と言われている」を作っておけという事。本気ですか？ 上場企業の部長クラスでも、年収 1

千万円と言えば破格だと思う。大卒 22 歳で就職、仮に 65 歳で退職するまで約 43 年。新入社員で、即年収 1 千万円は無理。普通ありえない。勤続年数に応じ昇給しても、退職間近に年収 3 千万円位必要になるという感じ。その間、結婚・育児・親の介護など家族に関するイベントや、自分自身の生活にお金が必要。また家や車といった耐久消費財を購入。子供達を「私立学校」に小学校から大学まで通わせたら、教育費だけで 3 千万円じゃ足りない。

世界的にも「増税」傾向にあるようで、11 月 24 日には仏・パリ、シャンゼリゼで「燃料費課税引き上げに対する大規模デモ」が発生。日本国にお金を寄付してくれる気前の良い国は無い。先進国全体が財政難状態。おまけに「株価が大暴落」し、各企業への増税はさすがに出来そうに無い。

足りなくなった予算は、国民をあくせく働かせて、税金で搾り取るというのか？ 日本国ブラック企業化？ 「庶民は生かさず、殺さず」江戸時代の農民の様だ。日本人は基本的に「おとなしい」から、暴動が起きないだけか？ その対策に、雇用期間（定年年齢）を 70 歳に上げると言う。水倶楽部会員諸兄の大半は 60 歳以上の皆様だから、今からあと 10 年程度は、もうちょっと我慢して勤勞奉仕せよという事かな？ ご健勝を祈念致します。萩丸は 20 年以上もありますが！

編集幹事のあと整理

- 今号は編集の都合で大幅に発行時期が遅れました。お詫びいたします。
- ところで「21 世紀水倶楽部だより」のような会報誌にも採用（コピペ）する映像に著作権の制約があるのをご存じでしょうか。毎日新聞の 11 月 5 日のネット記事「[ネット無料画像利用に注意！ 自治体が使用、多額請求も](#)」にもありましたが、公共の団体と言えど、個人的使用以外のものには著作権者の許諾が必要なので、無断使用に著作権料を請求される、とのこと。当 NPO も非営利法人ですが、個々に使う目的によって非商業的使用とは言えない場合があるようです。
- 次号から、執筆要領に写真使用の場合の以上の注意を記載する予定ですので、ご理解をお願いします。
- 会員だよりコーナーへの投稿を募集しています。投稿はいつでも受け付けます。直近の号に掲載します。投稿要領などは望月から毎回お出ししている原稿依頼メールをご覧ください。

編集幹事・望月